

The background image shows a wide expanse of dark blue water with fine ripples. In the upper right corner, a strip of green grassy land extends into the water. The overall atmosphere is peaceful and natural.

豊かなる丘の上に

豊丘村●1995年・村勢要覧

水と緑の
響和田

響和国へ

豊かな丘と書いて、「とよおか」と読む。

天竜川に刻まれた日本一の河岸段丘に広がる豊丘村は、自然とテクノロジーと人間とがやわらかに響きあう、

ようこそ。『響和国』です。



水と緑の響和国

豊かなる丘の上に／豊丘村●1995年・村勢要覧

CONTENTS

豊丘百景|2

このリンゴ、太陽の味がするね。|6

長沢リンゴ園地から愛を込めて

こちら「とよおか放送ネットワーク」|8

松茸名人の半世紀。|10

永遠の少年が語る豊丘の自然、暮らし、人。

とよおか今昔物語|12

響和国の子どもたち|14

豊丘北小学校4・5年生が見た“とよおか”

'95豊丘通信|16

History 豊丘村40年の歩み|20

■豊丘村の概要

長野県南部、下伊那郡の竜東北部に位置する豊丘村は、河野村と神稻村が合併し、昭和30年4月に誕生しました。東西10.5km、南北7.5kmで、総面積は76.85km²。アルプスの隆起によって生じた断層と、天竜川やその支流による浸食によって造られた日本一の河岸段丘の上にひらけています。人口は7,170人(平成7年国勢調査)。全面積の約80%は山林で、集落は天竜川沿岸地域と、河岸段丘地域に集中しています。気候は一年を通じて比較的温暖で、過ごしやすい環境です。



豊 丘 百 景



フナやウグイの棲む溪流がある。きのこ山や虫たちが息づく雑木林がある。

田んぼの畦道も小川も、夕焼けに染まる空もある。

豊丘には、日本人の心に宿る“ふるさと”の風景のほとんどが存在する。

同時に、整備された住環境や、ハイテクの集積地としての現代的な風景も併せ持っている。

そんなさまざまな風景が相反することなく、やさしく調和しあい響きあっているのが、豊丘の魅力だ。

響和国へ、ようこそ。

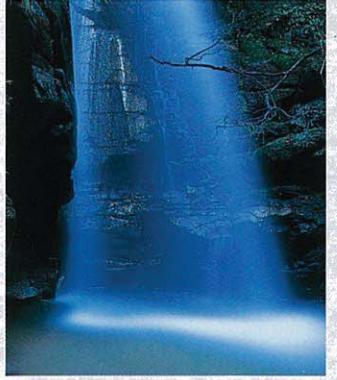
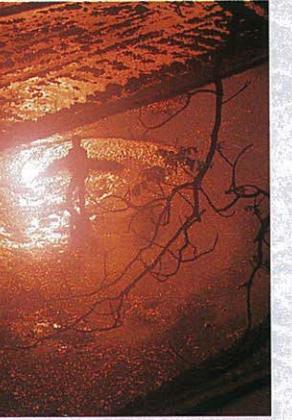


響和国の素顔

北緯35度33分、東経137度54分。豊丘村は、長野県の南、諏訪湖を源に太平洋へと流れ下る天竜川の東側に位置する河岸段丘の村です。村内を貫く王生沢川・虻川・芦部川など幾すじもの清流は、段丘を刻み起伏に富んだ美しい渓谷をつくりながら、天竜川へと注いでいます。見晴らしのよい段丘に立つと、遙かに木曽駒ヶ岳を主峰とする中央アルプスをのぞみ、眼下には飯田市街から対岸の高森・松川両町までを一望するパノラマが広がっています。振り返ると、そこには深い緑をたたえた伊那山脈が聳え、赤石岳を主峰とする南アルプスへと続いています。

旧石器時代の昔から

村は、伊那山脈へと続く山間地域、段丘が幾重にも連なる中段地域、そして天竜川沿岸に広がる下段地域の大きさ三つに分けることができます。水に恵まれ冬でも温暖なこの村には、今から一万余以前の旧石器時代から人々が住みつき、土地の利を生かした独自の暮らしを拓いてきました。伴野原や田村原など村内各地からは、日本最大の炭化物「パン状炭化物」(縄文時代の食物)をはじめ、縄文時代の土器や土偶、古墳時代の須恵器などが多数出土し、村の歴史民俗資料館に展示されています。



壬生沢の不動滝
豊丘松尾家へ嫁いだ維新の志士松尾多勢子の歌に、「萬世も絶きぬ流れや 美ふ沢の 滝のしいと くりかえしつづ」がある。



泉龍院の三色藤
名刹泉龍院脇の藤は、白・紫・薄桃色の三色の花をつける。開花を待って、村内外から多くの花見客が訪れる。



新九郎の滝
野田平からさらに奥へ進んだ下烏帽子山の懐にある絶景。岩肌を流れ落ちる水が、莊厳で美しい。



コブシの群生林
野田平の虻川左岸一帯の斜面に3ha余に渡って群生。4月の開花期には、山全体が可憐な白い花で覆われる。



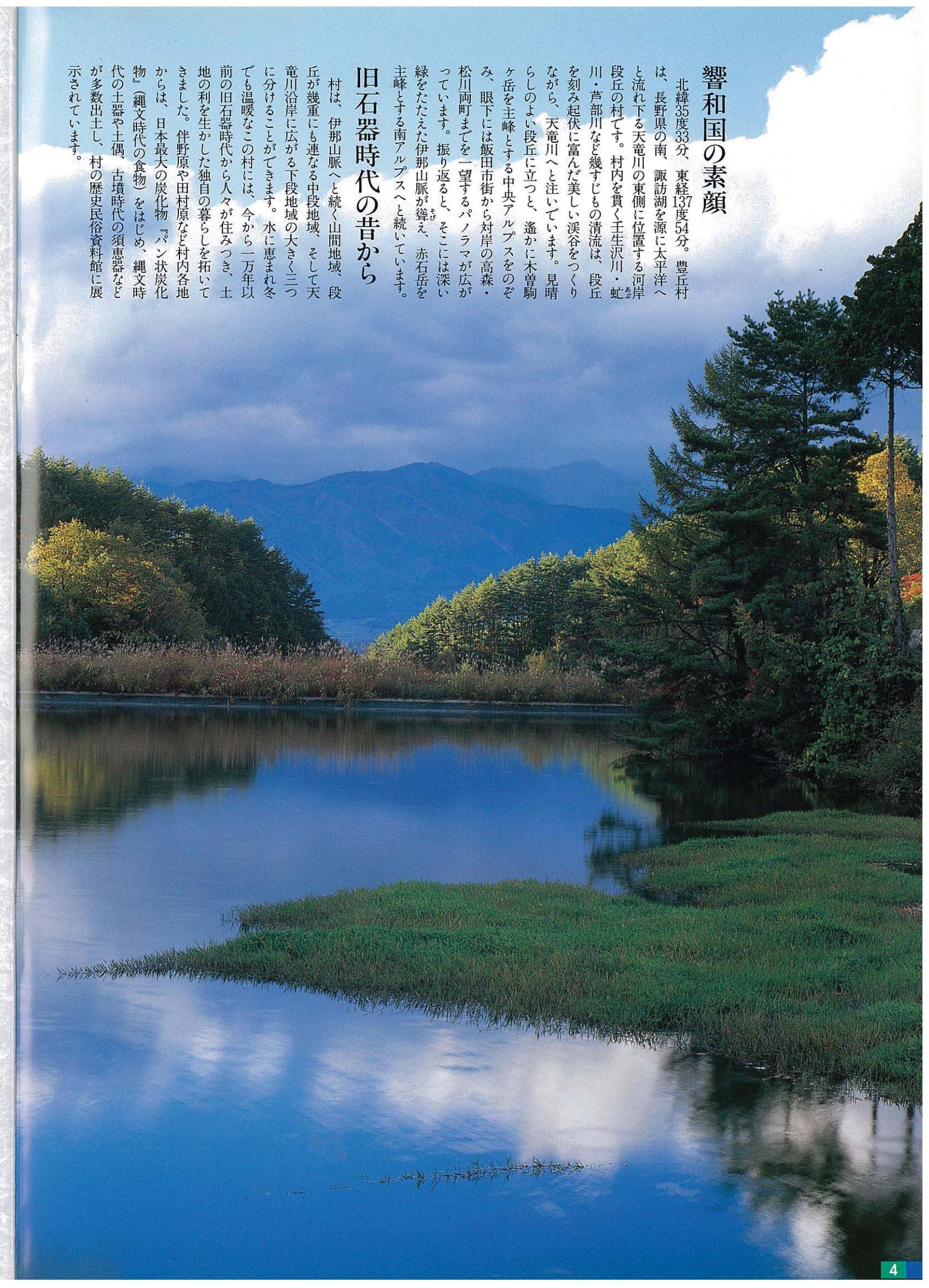
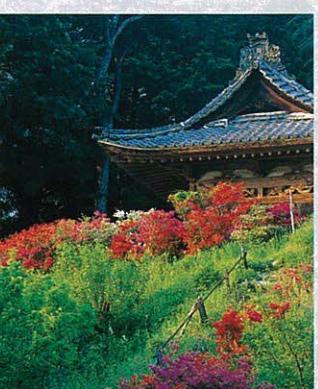
堀越松茸観光
松茸観光は、堀越地区の全戸で協力して運営されている。堀越区民会館では、松茸のすき焼き・松茸ご飯・焼き松茸など、贅沢な松茸尽しの料理が堪能できる。住民による素朴なおもてなしも魅力のひとつ。



野田平キャンプ場
緑と清流に抱かれた野田平キャンプ場は、旧野田平分校を改装した宿泊施設やログハウスが整い、ガス・水道・駐車場も完備。シーズン中は約6,000人の利用客で賑わう。



コブシの群生林
野田平の虻川左岸一帯の斜面に3ha余に渡って群生。4月の開花期には、山全体が可憐な白い花で覆われる。





長沢リンゴ園地から
愛を込めて

このりんご、 太陽の味がするね。



一本まるごとわが家のリンゴです。

「このリンゴは、世界にたったひとつしかない私のだけのリンゴなんですよ。だから美味しいのはもちろんだけど、嬉しい、いとおしくて…。」

9月の晴れた日曜日、岐阜から訪れたオーナーのひとりは、そう語って手にしたリンゴを大切そうに見せてくれました。リンゴには、彼女の名前が入ったシールが貼られています。長沢地区リンゴ園地は、中央アルプスを臨む段丘に位置する、眺めのよい最高の場所。この日は毎年9月上旬に行われる『収穫祭』だつたこともあり、収穫に訪れたたくさんのオーナーたちで溢れています。オーナーが契約している“つがる”種のリンゴは、数あるリンゴの中で最も早く収穫できる種類です。

長沢地区リンゴ園地は、中央アルプスを

150個～160個のリンゴが実り、多い木では200個もの大収穫になるといいます。これが単なるリンゴ狩りではない、オーナー制度ならではの醍醐味のひとつ。シートを広げてとっぱかりのリンゴをほおばる姿もあれば、農家のおばさんと一緒に記念写真をとる家族がいたり…。広いリンゴ園地のあちらこちらに、和やかな光景が見られます。

比べものにならない美味しさですよ。

豊丘村でリンゴのオーナー制度がはじまつたのは、平成元年のことです。収穫された果実を買うのではなく、リンゴの木そのもののオーナーになつて、丸ごと自分の手で収穫できるこの制度は、観光の新しいスタイルとして話題になりました。契約本数は現在約

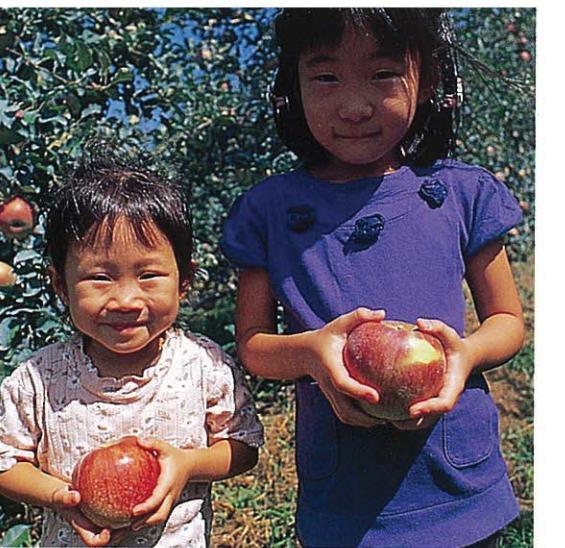
750本。オーナーは中京や静岡方面が中心ですが、関東方面から来る訪れるオーナーも少なくありません。家族はもちろん会社やグループで契約している人たちもいます。

「オーナーになつたきっかけは、家族全員リンゴが大好きなこと。それから子どもに木から直接リンゴを収穫させたかったからですね。恥ずかしい話ですが、都会に住んでいると大人でさえリンゴがなっているところなんて見たことなかつたんです。スーパーのものしか食べたことがなかつたので、比

べものにならない美味しさですよ。これは！帰つたら早速、親戚に配るんです。」

名古屋から来た家族は、車一杯リンゴを積んで満足そう。

太陽をいっぱい浴びた
“つがる”リンゴは、みずみずしくて甘い。
収穫に来られなくても、
もちろん送ってくれるから安心。



●管理・申し込み受付はJA天竜みさと
「グリーンベース」が行っている。
☎0265-35-8668

原点に返つたような気持ちです。

長沢リンゴ園地の試みは、管理する立場の農家にもさまざまな影響を与えました。

「天候にかかわらず、1本につき最低100個は保証しています。オーナーさんはもう何年もお付き合いしている方が多いですから、美味しいリンゴをたくさん作つてあげたいと思いますね。長年果樹を作つてきたけど、原点に返つたような気持ちです。こんなに喜んでもらえるなら、頑張らなければ、と励まされてるみたいですね。」春の園

びらきには豊丘産のイチゴなどをプレゼントしたり、収穫祭には清流で魚のつかみどりを楽しんでもらったりと、オーナーを迎えて入れる農家側も豊丘の自然を生かしたイベントに余念がありません。

「豊丘つていい名前ですよね。来てみたら本当に字の通りでした。うちは、子どもの誕生と同時に申し込んだんです。だから、子どもとリンゴと一緒に大きくなっている感じで、収穫に来ると感無量ですね。」

ここにも、リンゴを通じて響き合う響和国・豊丘の風景がありました。



「とよおか放送ネットワーク」

豊丘村のCATV局『とよおか放送ネットワーク』は、村の日常をありのままに映し出すことで、この村の人々一人ひとりを主人公に変えていく。4人のスタッフは、子どもからお年寄りまでのすべてを、たった2年間で村の情報通に変えてしまった。ささやかな感動や発見は、ありふれた毎日の中に詰まっている。



とよおか放送ネットワーク（農事放送農業協同組合・愛称THN）は、平成6年4月1日、それまでの有線放送電話に代わり、新しくケーブルテレビ局として開局。15分（20分のニュース＆情報番組『THNニュース』を1日10回、2日間同内容で放送しています。内容は、運動会やゲートボール大会、祭りの取材など村内で行われるイベントや行事はもちろん、農作物の収穫風景といった季節の話題や、議会生中継まで実に多彩。いつ見ても新しい話題が満載です。ニュース以外にも年に何本か自主番組を制作。独自の視点で、村民へのメッセージを発信しています。

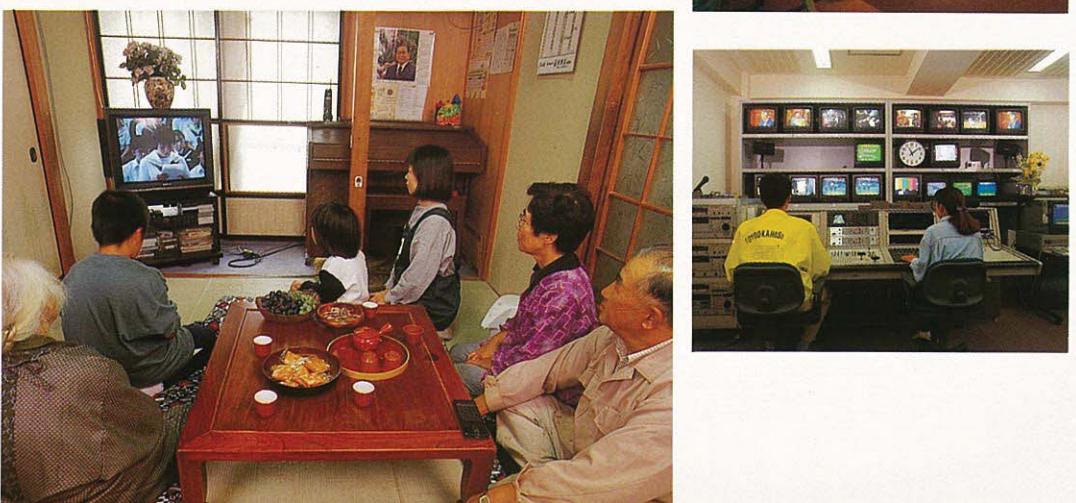
あくまで地域密着型のメディアですか らね。村で行われる行事はすべて収録に行きます。加入者の皆さんにお聞きすると、嬉しいことにほとんどの方がニュースを見ていているんです。だからこそ、新鮮な村の話題をわかりやすくお伝えしたいと思っています。』とスタッフ。THNへの加入率は、実際に全戸数の93%。村のほとんどの人たちが、THNを見ているといつても決して過言ではないでしょう。4人のスタッフで、番組の企画から編集までのすべてをこなすのは大変なのでは？といてみると、「分業できるほどの人数ではないので、4人全員が企画も収録もナレーションも編集も機械操作もすべてやっています。ニュースでアナウンスを担当している紅一点の彼女だけ、重いカメラを抱えて取材に行き、カメラマン兼インタビュアーをひとりでこなすこともあります。そういうことを村の人たちはよく知っているから、情報提供には本当に協力的ですね。ありがとうございます。」

開局間もない昨年のこと、THNが一躍注目される出来事が起きました。全国有線テレビ協議会が主催する平成6年度自

主放送番組のコンクールに於いて、2部門で優秀賞を獲得したのです。その上、NHKが主催した第1回ケーブルテレビ自主制作番組コンテストでも、奨励賞を見事獲得。全国の強豪CATV局がひしめく中での、言わば『新人』の快挙でした。優秀賞作品のひとつ『千春さんの風船日記』は、風船によって始まった少女との交流を描いた作品。番組は、千春さんの十年余に及ぶ文通の記録をたどりながら進み、成長した少女が結婚し初めて千春さんを訪れるまでを感動的に描いています。

二 ニュースは毎日見ておるよ。足が悪くなつてあんまりで歩けなくなつてしまつたから、あの番組はとても楽しみで見ているよ。必ず知った人が出るからね。この間敬老会の番組を見たとき、もう何十年も会つていよい昔の同級生が映っていて涙が出るほど嬉しかった。わしも頑張らにやあと元気が出たよ。』と、堀越地区のあるお年寄りは、目を細め嬉しそうに話してくれました。

また、河野地区のある男性は、「壯丁踊り」を取り上げた番組がよかつた。お祭りだから、と今まで当たり前のように考えてきたけれど、伝統って何だろうとか、これからどうなっていくんだろうとか、考えさせられたね。THNの番組は、ただ番組を流すんじゃないくて、問題提起してくれるところがいいね」と語ります。THNは、村に住む人々の代弁者として、今後の村作りにも大きな影響力をを持つことになりそうです。



「この村に住む一人ひとりを主人公にしたいんですよ。みんなそれぞれの場所で、頑張つて生きている。何気ない日常の中にも、感動や発見はいっぱい詰まっていると思うし、素敵な人ばかりなんですよ。だから僕らスタッフは、みんなにTHNという光をあてたい。この村に住む人は、豊丘を愛する心でみんな繋がっているんです。THNは、そんな心が響き合つてつくる放送局なんですよ。」



森は生きている。

「今朝の収穫はこれだけ」そう言つて差し出した籠の中には、2本の松茸をはじめ大小のこがびつり詰まっている。「お目当ては松茸かな。一緒に山に入るつもりで来たの? 松茸なんかそんじょそこらじや見つからないよ」とのつけから手厳しい。

村の南部、福島地区で農業を営む高田道雄さんは、今年78歳。豊丘村内外を問わず、きのこ名人としてその名前を知る人は多い。幅広い知識と人柄を買われて、ここ15年もの間、保健所から『きのこ衛生指導員』に任命されている。そのため、毎年秋になると公民館やイベントなどに招かれ、説明や鑑定にひっぱりだこだ。

「わしが子どもの頃は、今とは比べものにならないくらいいたさんきのこが出たね。松茸だつてもちろん凄かつた。朝早く、親父と一緒に山に入るとすぐに『しょいかご』いっぱいになってしまつてねえ。困るくらい穫れた。あの時を思うと、今は寂しいね。」高田さんは、声を曇らせた。

赤松林の多い豊丘村は、古くから松茸の名産地として有名だった。赤松林ならどこでも松茸が出るのでは、と素人は考えてしまいますが、菌が育ちやすい土壤や気候的条件などが重ならなければ成長しない。高田さんに

よれば、ここ20年で松茸をはじめきのこ全体の量は激減したという。果樹に散布する農薬が風に乗つて山まで届き、菌まで殺してしまったためか、森全体の生態系が変化しているからなのか、地球の温暖化によるものなのか、はつきりした原因は分かっていない。村を代表する観光資源を守り受け継ぐために、堀越地区では山を管理し、松茸が成長しやすい環境を保つている。あの歯ごたえと風味は、た

ゆまぬ努力の賜物なのだ。

「この上をジェット機が飛ぶようになつてから、きのこの量が減つたような気がするなあ。みんなは笑うけど、大気中の何かに異変が起きているんじゃないかと思う。森は生きているからね。」そう言つて高田さんは空を指さした。その指の先には蒼く澄んだ秋の空が続いているばかりで、今ひとつピンとこない。しかし、豊丘に生まれ育った高田さんは、自然環境の微妙な変化をも決して見逃さないのだ。それは、何十年もの間、村中の森や林や沢をくまなく歩き熟知してきたものだけが知りうる、第六感なのかもしれない。

とんやらなきや気が済まない。

高田さんがきのこに興味を持ったのは小学生の頃。

「小さい頃から山は大好きだつた。あれは小学校5年の時だつたかな。毒きのこを食べて家族全員あたつてしまつたことがあつてねえ。それからきのこをもつと知りたいと思うことになつた。もう65年以上の付き合いつてことかな。当時は現在のようにならぬものばかり。解説もなく、名称さえわからないものばかり。この日から研究は始まつた。研究範囲は村内や県内ではあきだらばず、やがて日本全国の山々に広がつていつた。北海道から九州まで、訪れた山は数え切れない。

「一度興味を持つと、とここん研究しなければ気が済まない凝り性なんだよ。本を読んだだけじゃ納得できなくて、実際に自分で確か

「来年はね、日本一を狙つていいんだよ。種を抜いたばかりの瓢箪を手に、高田さんは少年のような目でささやいた。

豊丘の人は、まあるい。

誰にでも親切でやさしく、そのうえ明るく大らか。豊丘村に暮らす人たちのそんな人間性を総じて、『丸い』と表現することがある。『丸い』人間性こそが、この村の大きな財産といつても決して過言ではない。

大正、昭和、平成と激動の時代を生き抜いてきた高田さんは、まさに豊丘らしい『丸く』温かい人だつた。

「50年前、一緒に頑張つてきた仲間はみんな戦死してしまつた。生き残つたわしには、まだやらなければならないことがいっぱいある。みんなの分までね。」

10月のある晴れた土曜日。約束の場所に到着すると、高田さんはバイクの傍らにひざを抱えて座り、たばこをくゆらせながら待つてくれた。

日に焼けた頬、人なつこい笑顔、眼鏡の奥の瞳は、深く透明で輝いている。

高田道雄さん。きのこを語らせたら右に出る者はない、と言われる『きのこ名人』だ。



めてみたくなる。だから、農閑期になるとパツと方々へ出かけちゃう。きのこだけじゃないよ、瓢箪もそうだなあ。」きのこ名人はまた、愛瓢箪としても有名だ。自宅前に瓢箪棚を構え、毎年何百個もの瓢箪作りに精を出す。載るミニチュアサイズまで様々。ご自慢の『瓢箪部屋』には、ねじりのあるものや2本を絡みあわせた大作など、入賞作品が所狭しと並んでいる。高田さんにとってきのこと瓢箪は、趣味をはるかに超えたライフワークそのものなのだ。

「来年はね、日本一を狙つていいんだよ。種を抜いたばかりの瓢箪を手に、高田さんは少年のような目でささやいた。

松茸名人の 半世紀。

永遠の少年が語る豊丘の自然、暮らし、人。

高田道雄

農業・78歳



一万里以上前の旧石器時代から、連綿と紡がれてきた豊丘の歴史。

今日の豊かな暮らしは、多くの先人の汗と涙と情熱の結晶にほかならない。今は昔の物語の中には、私たちが忘れていた勇気や知恵、そして豊丘の意外な素顔が見え隠れする。

とよおか

今昔物語

応募総数971点
住民投票で選ばれた豊かな村の由来とは。

今は昔。昭和30年、河野村と神稻村が合併することになった時のこと。新しい村の名前を決めるために、両村は住民から一人一点を記名で募集した。村民はござつてこれに応募し、応募総数は実に971点にのぼった。その中から「共和・みずほ・八郷・睦・豊丘」の5種類が選考され、さらに一戸一票で投票が行われた。その結果、現村名である「豊丘」が最高点で選ばれ、4月1日より新しく「豊丘村」として生まれ変わった。

豊丘村という名前の由来について、名付け親である村民は、「丘は山にも里にも通じる。新村の位置は日本屈指の段丘の上に発達した村であり、これからも未来が豊かで平和であるように願いを込めた意味である」と記している。そして、竜東地域に新しい村が誕生してから、40年の歳月が流れた。

第壹話

御殿様あやうし、
竜ノ口船渡の一大事。

今は昔。ごく近来まで豊丘の人々に欠かせなかつたもののひとつに、天竜川の船渡がある。江戸時代の記録によれば、豊丘にあった船渡は、「田村明神の渡」「林前の渡」「伴野の渡」そして「竜ノ口の渡」の4箇所にあつたとされている。それぞれの渡船場には、領主の許可を得た同士が船仲間を組織し、開業していた。なかでも「竜ノ口の渡」は、伊那街道から秋葉街道への要所として物資や人々の往来が盛んで、参勤交代や幕府からの御順見便の道筋でもあった。

江戸後期、文政十二年五月のこと、その竜ノ口の渡で一大事があった。それは、当時の支配者だった阿島の知久頬衍(幼名・千馬佐)が、参勤交代の任務を終え、行列物々しく竜ノ口の渡へさしかかった時に起こった。川の两岸は、江戸帰りのお殿様を一目見ようと出迎えの人々でごった返していた。この日の天気は快晴だったが、前日までに降った雨のせいで水かさはやや多く川は濁っていたという。やがて一行を乗せた船は、渦を巻いて泡立つて流れる難所へとさしかかった。船頭が竿をはつて漕ぎ上げたその時、船のへ先が水中へ突き刺されたかと思ふと船はたちまち転覆。殿様もろとも水中へ放り出されて、瞬く間に流されていった。これを見ていた群衆は大騒ぎ。大声をあげる者、泣き叫ぶ者、辺りは阿鼻叫喚

の混乱に陥った。そんな中、勇敢にも丸裸になつて激流に飛び込む者がいた。河野村の百姓松右衛門であつた。松右衛門は、流れに翻弄されながらも水中より手首の出ている殿様を見つけて助け上げた。殿様こそ一命をとりとめたものの、この事故で家来の数人は死んでしまった。籠の中にあつた刀などの品々は皆流失してしまつた。命拾いした頬衍は大層感激し、松右衛門を屋敷に呼んで金拾両と酒肴を賜つたという。

時代は流れ、かつての明神の渡は今、新しい明神橋として生まれ変わらうとしている。

第參話

虻川の伝説

今は昔。伴野の東、萩野というところには、昔から虻がたくさん群生しておつたという。それはそれはたくさんの虻だった。ある年のこと、虻の群れが二手に分かれていけんかを始めた。虻たちは激しく戦い、次々と力尽きていた。力尽きた虻は川へ落ち、川面を黒く埋めた。それからというもの、水が見えないほどの虻が流れただこの川を、誰ともなく「虻川」と申し伝えるようになったという。

おどろおどろしい伝説とは裏腹に、現在の虻川とその沿岸は、四季折々の自然の宝庫として村民はもとより多くの人々が憩い楽しんでいる。



●河野人形頭

泉龍院の十六羅漢(十三の十六羅漢像は、祇迦三尊像・四天王像とともに泉龍院山門(村指定文化財)の楼上に安置されている。十六羅漢とは、仏の弟子十六人を指す。)



飯田・下伊那地区は、平成5年から国の「地方拠点都市整備法」の指定を受け、生活圏の総合的な整備事業がスタートしました。豊丘村では、村の中心部である田村地区が指定地域に選ばれ、『にぎわいと交流のまちづくり』を目標に様々な事業が予定されています。

重点的に行われる事業としては、竜東一貫道路の整備、明神橋の橋梁整備、公共下水道事業、役場庁舎新築、健康保健センターの開設などがあり、すでに着工と進められています。目標である平成12年2年頃には、田村地区が新しい村の玄関口としてより魅力的に生まれ変わることでしょう。

一本の橋と道がつなぐもの

現在の明神橋は昭和7年に建設され、今まで60余年にわたり高森町と豊丘村を結ぶ交通の要衝として大きな役割を果していました。しかし増え続ける交通量に対し橋の老朽化は年々進み、通行に支障をきたすようになりました。そのような状況をふまえて、平成5年度から本格的な橋梁整備事業が始まっています。

新しい明神橋は長さ226メートル、幅12メートルで、平成9年度に完成の予定です。橋の両側にはゆったりした歩道が設置され、所々にフリースペースが設けられています。川面や辺りの景観を楽しむことができるこのフリースペースは、豊丘中学校の生徒からの提案が生かされたもの



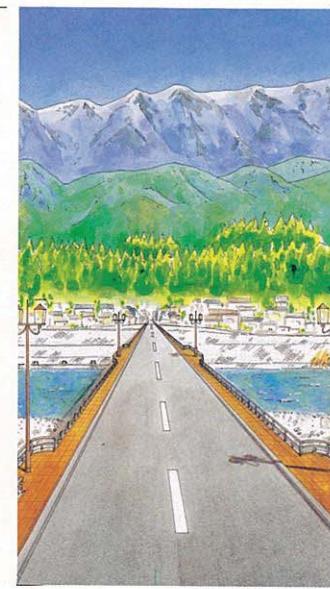
●竜東一貫道路

で、『花火と灯笼流しが楽しめそうだ』と完成前から早くも話題になっています。

竜東一貫道路は、喬木・豊丘の両村を縦断する全長約9000メートルの道路で、豊丘村では昭和63年から工事に着手しています。一部供用が開始されている地域もありますが、全線開通は平成12年の予定です。この竜東一貫道路は、三遠南信自動車道と中央自動車道松川インター、国道153号線や飯田市街地へのバイパス道路として大変利便性が高く、早期の完成が望まれています。

数年後に相次いで完成するこの橋と道路は、産業の振興や利便性の向上だけでなく、新しい文化や可能性が行き交う「大動脈」として、大きな役割を担っているのです。

川辺の新名所はアルプスがイメージ



●明神橋完成予想図

平成6年、神稲地区の天竜川堤防の脇に、欧風の洒落た建物が建設されました。この建物は、豊丘から見えるアルプスの山々をイメージして作られた村の豊丘净化センターです。斬新な外観によって、従来の「下水処理」の概念はすっかり覆されてしまったようです。

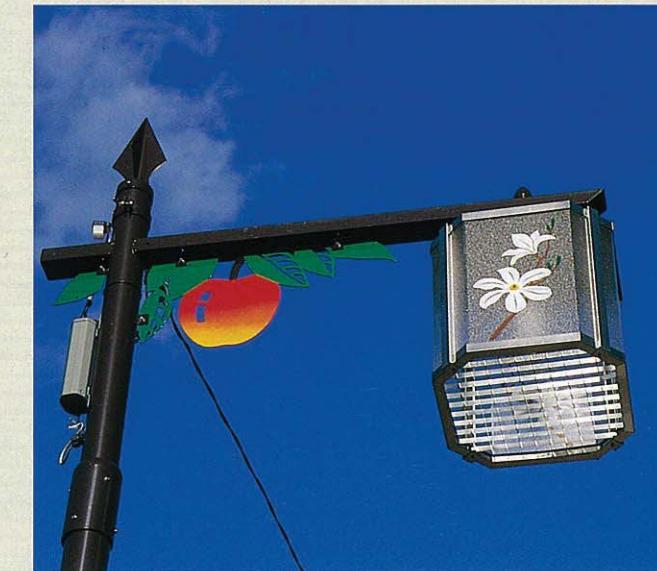
平成元年、豊丘村は本格的な下水道整備事業に着手しました。以来、平成10年度の全村水洗化と雑排水処理に向けて、各地区ごと積極的に取り組みを続けています。平成4年度に完成した伴野地区は、翌年から供用が開始されており、続く河野地区・田村・林地区の整備についても今年から一部供用が始まっています。一方、中山間地区での下水道整備事業は、下段地区とは異なり合併処理浄化槽の設置です。設置にあたっては、地形やスペースの問題などもありますが、住民の皆さんとの協力によってこちらも順調に進められています。

これらの日常生活に欠かせない下水道の整備。川辺の新名所は、快適で清潔な暮らしの新しいシンボルなのです。



●豊丘浄化センター

生活環境整備



'95 豊丘通信

That's Toyooka Column & News

豊丘通信は、村の現在をニュース感覚で切り取った情報コラム。新しい視点から村を観察してみると、豊丘の未来が見えてくる。

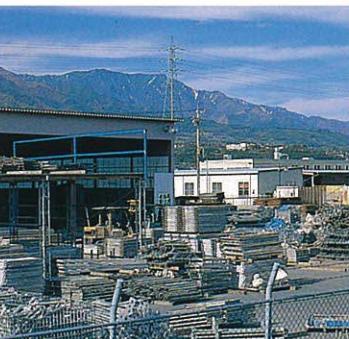
交流	防災・安全対策	農業	工業	生活環境整備
福祉・健康				

工業

豊丘がハイテクのふるさとになる日

21世紀を目前に控え、伊那谷は三遠南信自動車道、地方拠点都市整備事業、伊那テクノバレー開発計画、リニア新幹線構想など広域的なまちづくりへと大きく動きはじめています。これからの行政と企業に求められるのは、地域や業種を超えた「まちづくり・人づくり・技術づくり」の総合的な取り組みです。

現在豊丘村内にある企業は40社、年間出荷額は154億円(平成6年度)に達しています。従業員数は約850人で、若者の地元定着にも明るい兆しが見えています。なかでも工業は、昭和37年の柿外地区への工場誘致を皮切りに、昭和52年には伴野工業団地が造成され、これを機に飛躍的な進展を遂げました。柿外地区には長野県テクノハーランド構想に基づく県営工業団地の誘致を、河岸段



丘と中山間地域には、企業の研究開発施設の誘致をそれぞれ積極的に進めています。豊丘がハイテクのふるさとになる日は、そう遠くないのです。

村ではこうした大きなプロジェクトを推進する一方で、中小企業の経営合理化や人材育成・人材の確保などのきめ細かな支援対策についても、前向きに取り組んでいます。

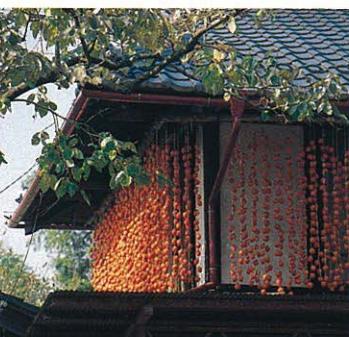
農業

フルーツタウン"とよおか

時代の変遷とともに、農業を取り巻く環境は大きく変化しました。昭和40年に1300戸余あった豊丘村の農家数は、平成7年には980戸まで減少しましたが、「りんごの木のオーナー制度」や「くだものふるさと便」をはじめとする新発想の商品が人気を集め、豊丘村の農業はいま、新しい局面を迎えてます。

村では早くから農業基盤の整備・稲・畜産中心型農業から果樹・畜産を中心とした複合経営へと柔軟に移行してきました。なかでも果樹は味・質とともにすれ、県内外からの人気も高く、順調に出荷量を伸ばしています。

現在豊丘村では、りんごをはじめなし・かき・もも・小梅などの果樹が栽培・出荷されています。ひとつずつ生産条件の異なるりんご・なし・かき・ももの4種類がつくられていることは大変めずらしく、日本中に同じような村はほとんどありません。豊丘には気温・土壤・降雨量を伸ばしています。



水量など、果樹栽培に必要なあらゆる自然条件が揃っているのです。

おいしい果物は、栄養価にすぐれているだけでなく、季節感を運び、心を豊かしてくれる不思議な魅力にあふれています。豊丘村は、長野県はもとより日本を代表するフルーツタウンとして、これからも季節の味をつくり続けることでしょう。

福祉・健康

ほほえみとふれあいと

豊丘村の高齢化率は、平成7年4月1日現在24.8パーセントで、平成12年には27.0パーセントに達することが見込まれています。これは全国より10年先行している長野県の高齢化率をさらに上回るもので、豊丘村が本格的な長寿社会を迎えていることを裏づける数字です。こうした急速な高齢化によって、寝たきり老人や独居老人の増加、介護者の高齢化、雇用問題など様々な課題も浮き彫りになり、保健・医療・福祉の総合的な地域福祉活動の充実が求められています。

豊丘村では、平成元年5月に社会福祉事業の運営と増進を図る目的で社会福祉協議会を発足し、平成5年4月には役場裏にデイサービスセンター「ほほえみ」を開設しました。「ほほえみ」は、高齢者や独居老人の增加、介護者の高齢化、雇用問題など様々な課題も浮き彫りになり、保健・医療・福祉の総合的な地域福祉活動の充実が求められています。

防災・安全対策

明日がもしXデーだとしても。

今年1月に起きた阪神淡路大震災は、地震の恐ろしさを改めて実感させられたとともに、日頃の自主防災の必要性を感じる出来事でした。豊丘村を含む飯田市など18市町村は、昭和54年8月に「東海地震にかかる地震防災対策強化地域」に指定されています。地震の想定は、駿河湾および東海沖を震源とするマグニチュード8前後の地震で、豊丘村の震度は6前後と予想されています。しかしながら、指定当時は一時的に地震に対する意識が高まつたものの、年数が経過するにつれて、意識も備えもおろそかになつてゐるのが実情ではないでしょうか。

豊丘村では、昭和62年から村内全域で同報無線施設が開局されています。現在39ヶ所の野外拡声子局とCATVを通して、災害時や火事などの緊急連絡のほか、行政からのお知らせなどが放送されています。災害は無論ないにこしたことはありませんが、万が一の際の警報や避難についての情報などは、この同報無線施設を通じてお知らせします。

一方富士市からは、農業体験学習への協力に応えるかたちで、昨年豊丘中学校の3年生が市内見学に招待されました。また、吉原第三中学校の学区である原田地区の運動会には、村の代表がりんごを持てて毎年参加しています。

今年10月、この体験学習を側面から支援し、さらに交流を深めようとして吉原第三中学校の卒業生の父母らが中心となつて「農友会」が結成されました。会員は11月19日に行われた「とよおかまつり」開催中に村を訪れ、受入れ農家や関係者との交流会に参加して旧交を温めました。子どもたちの農業体験学習を通して育まれた交流の絆は、地域を越え、世代を越えてさらに深くかたく受け継がれていくことでしょう。

交流

農業体験から心の交流へ

今年10月、この体験学習を側面から支援し、さらに交流を深めようとして吉原第三中学校の卒業生の父母らが中心となつて「農友会」が結成されました。会員は11月19日に行われた「とよおかまつり」開催中に村を訪れ、受入れ農家や関係者との交流会に参加して旧交を温めました。子どもたちの農業体験学習を通して育まれた交流の絆は、地域を越え、世代を越えてさらに深くかたく受け継がれていくことでしょう。

豊丘村消防団は定員220名。高齢化や若者の減少によって団員の確保が難しい時代になりましたが、地域住民の命と財産を守るために、強い使命感を持って防火防災の任務にあたっています。

豊丘村消防団は定員220名。高齢化や若者の減少によって団員の確保が難しい時代になりましたが、地域住民の命と財産を守るために、強い使命感を持って防火防災の任務にあたっています。

豊丘村消防団は定員220名。高齢化や若者の減少によって団員の確保が難しい時代になりましたが、地域住民の命と財産を守るために、強い使命感を持って防火防災の任務にあたっています。

豊丘村消防団は定員220名。高齢化や若者の減少によって団員の確保が難しい時代になりましたが、地域住民の命と財産を守るために、強い使命感を持って防火防災の任務にあたっています。



●東洋大学セミナーhaus



豊丘村では、平成元年5月に社会福祉事業の運営と増進を図る目的で社会福祉協議会を発足し、平成5年4月には役場裏にデイサービスセンター「ほほえみ」を開設しました。「ほほえみ」は、高齢者や独居老人の増加、介護者の高齢化、雇用問題など様々な課題も浮き彫りになり、保健・医療・福祉の総合的な地域福祉活動の充実が求められています。

豊丘村では、平成元年5月に社会福祉事業の運営と増進を図る目的で社会福祉協議会を発足し、平成5年4月には役場裏にデイサービスセンター「ほほえみ」を開設しました。「ほほえみ」は、高齢者や独居老人の増加、介護者の高齢化、雇用問題など様々な課題も浮き彫りになり、保健・医療・福祉の総合的な地域福祉活動の充実が求められています。

豊丘村では、平成元年5月に社会福祉事業の運営と増進を図る目的で社会福祉協議会を発足し、平成5年4月には役場裏にデイサービスセンター「ほほえみ」を開設しました。「ほほえみ」は、高齢者や独居老人の増加、介護者の高齢化、雇用問題など様々な課題も浮き彫りになり、保健・医療・福祉の総合的な地域福祉活動の充実が求められています。

豊丘村では、平成元年5月に社会福祉事業の運営と増進を図る目的で社会福祉協議会を発足し、平成5年4月には役場裏にデイサービスセンター「ほほえみ」を開設しました。「ほほえみ」は、高齢者や独居老人の増加、介護者の高齢化、雇用問題など様々な課題も浮き彫りになり、保健・医療・福祉の総合的な地域福祉活動の充実が求められています。

History

豊丘村40年の歩み



自然と人が共生する うるおいのある村を目指して

昭和30年4月1日、河野村・神稻村が合併し現在の豊丘村が発足してから40年の歳月が経過いたしました。発足間もなく36災害という稀有の激甚災害に見舞われたり、日本経済の急速な発展の影で過疎化の波に翻弄されるなど、村づくりの道は決して平坦なものではなく、幾つかの大きな試練もありましたが、村民各位のご支援ご協力により乗り越えて参りました。来たる21世紀に向かつて「自然と人が共生するうるおいのある村」を目指し、全村下水道の整備・役場新庁舎の建設・田村地区の街路整備など諸施策を進め、活気に満ちあふれ、清潔でうるおいのある村となるよう邁進する所存であります。

村民の皆様のご協力を重ねてお願い申し上げ、本冊子が新たな発想を生み、創意を育てる糧となることを念じ、発行にあたつてのご挨拶といたします。

平成7年12月

豊丘村長 松村 利治

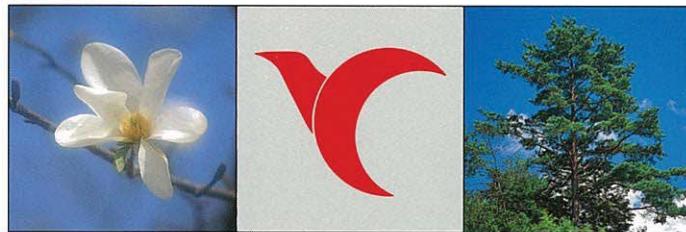


- 昭和30年 ● 神稻村・河野村合併、豊丘村誕生。
- 昭和31年 ● 中学校建設着工。
- 昭和32年 ● 南北小字完全給食はじめます。
- 昭和33年 ● 中学校完成。
- 昭和34年 ● 全村有線放送施設完成。
- 昭和35年 ● 村境変更。二十部落編入。
- 昭和36年 ● 梅雨前線豪雨災害。
- 昭和37年 ● 小中学校校歌制定。
- 昭和38年 ● 南小体育館完成。
- 昭和39年 ● 万年橋架替。
- 昭和40年 ● 梅雨前線豪雨災害。
- 昭和41年 ● 中学校プール完成。
- 昭和42年 ● 小字名廃止。
- 昭和43年 ● スクールバス運行開始。
- 昭和44年 ● 分校統合。
- 昭和45年 ● 消防団分団統合。
- 昭和46年 ● 中学校グランドに夜間照明完成。
- 昭和47年 ● 中学校岩石園完成。
- 昭和48年 ● 早起き野球ナイターソフト開幕。
- 昭和49年 ● 台城橋架替。
- 昭和50年 ● 老人憩の家完成。
- 昭和51年 ● 県営住宅建設着手。
- 昭和52年 ● 合併20周年。
- 昭和53年 ● 村章制定。
- 昭和54年 ● 村誌発行。
- 昭和55年 ● 農村総合整備モニタリング事業着手。
- 昭和56年 ● 伴野工場団地完成。
- 昭和57年 ● 議員定数22名を20名に改正。
- 昭和58年 ● 野田平集団移住完了。
- 昭和59年 ● 下水道事業着手。(伴野農業集落排水事業)
- 昭和60年 ● 第一回よあかまつり開催。
- 昭和61年 ● 防火無線施設完成。
- 昭和62年 ● 村民憲章・村木・村花制定。
- 昭和63年 ● 力士トリーバー克完成。
- 昭和64年 ● 第一回とよあかまつり開催。
- 昭和65年 ● 竜東一貫道路建設着工。
- 昭和66年 ● 村花こぶし苗を全戸配布。
- 昭和67年 ● 地域づくり事業始まる。
- 昭和68年 ● こぶしぱバターゴルフ場完成。
- 昭和69年 ● 野田平キャンプ場整備。
- 昭和70年 ● 平成2年 ● 地震総合防災訓練実施。
- 昭和71年 ● 平成2年 ● こぶしぱバターゴルフ場完成。
- 昭和72年 ● 平成3年 ● 24時間ソフトボール大会始まる。
- 昭和73年 ● 平成3年 ● 野田平キャンプ場整備。
- 昭和74年 ● 平成4年 ● 地震総合防災訓練実施。
- 昭和75年 ● 平成4年 ● ティサー・ビスセンター「ほほえみ」完成。
- 昭和76年 ● 平成5年 ● 中学校に外国人英語講師着手。
- 昭和77年 ● 平成5年 ● 明神橋架替工事始まる。
- 昭和78年 ● 平成6年 ● 第一回農業フォーラム「豊丘開催」。
- 昭和79年 ● 平成6年 ● 野田平キャンプ場整備。
- 昭和80年 ● 平成7年 ● 林原多目的広場完成。
- 昭和81年 ● 平成7年 ● 農村総合整備モニタリング事業完了。
- 昭和82年 ● 平成8年 ● 合併40周年。
- 昭和83年 ● 平成8年 ● 役場庁舎建設着手。



●庁舎完成予想図

水と緑の
豊丘村



豊丘村●1995年・村勢要覧

発行日：平成7年12月

発行：長野県下伊那郡豊丘村

編集：豊丘村役場総務課

制作：株式会社ジャステック